

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特色を活かして、自らが学び創造する喜びを持ち、本当の自分を見つけ、高い志を持って、社会貢献を通して自己を実現する生徒を育成する学校。
 生徒： 自らを律し、高い志を持ち、自己を実現すべく自主的に学び、主体的に学校づくりに参加し、卒業後の大きな”伸びしろ”を有する生徒。
 授業： 生徒の進路希望と興味関心に応え、生徒の志を実現するための進路に必要な学力を保障するために、進化を続ける必修科目と選択科目。
 風土： ビジョンを共有し、チームとして協同し、成果を分かち合い、社会との関わりを大切にして、生徒の成長を支える教職員。

2 中期的目標

1. 高い志を持って進路を切り開いて行く力の育成

- (1) 自らの進路を考える力の育成： 1年『自己発見』、2年『自己探求』、3年『課題研究』を軸として『今宮志学』プログラムの体系化
 ※卒業時の学校教育自己診断における「1年、2年、3年での今宮志学」への肯定的回答を全て80%以上とする。
- (2) 『考える力』、『まとめる力』、『伝える力』の育成： 生徒が発表する機会・場の提供と生徒相互の取り組みへの支援・育成
 ※今高生の主張、英語スピーチコンテスト、生徒自治活動、クラブ活動、サマーセミナー、野外スクーリングの実施
- (3) 国際感覚と国際交流力の育成： 海外交流と生きた英語に接する場の提供とそれぞれのレベルでの英語表現力の向上
 ※ 英語暗誦大会、海外語学研修（オーストラリア・米国）、海外留学生・海外学校訪問受入れ、特色ある英語選択科目（『映画で英語』等）の提供
 ※ 英検等外国語認定試験にトライする風土の育成。

2. 自己実現のための学力保障

(1) 総合学科の特性を活かしたカリキュラム編成

- ア. 大学進学を中心課題とし、生徒・保護者の多様なニーズに応え、生徒の将来に資するカリキュラム編成
 ※卒業時の学校教育自己診断における次の2つの項目における肯定的回答を共に90%以上とする。
 ①「選択科目の内容は、期待通りであった。」
 ②「選択した科目で、自分の進路選択につながるものが十分あった。」

(2) 授業の充実

- ア. ICT活用、授業アンケート、研究授業、授業評価による教科チーム毎の授業力の向上と今高にふさわしい教育力向上システムの確立。
 ※研究授業実施回数 年間国数英理社2回以上、他教科1回以上（計15回以上）

(3) 進路保障

- ア. 自らが学びへの高い志と意欲をもって学習に取り組む生徒の育成
 ※ 卒業時の学校教育自己診断における生徒の「家庭学習(予習・復習)」項目の肯定的評価をH28年度70%に高める。(H25年度45%)
- イ. 国公立及び関関同立・近の合格レベル達成を支援する情報提供と学習指導の充実
 ※ 国公立と関関同立・近への進学者合計が、四年制大学進学者の70%以上を占める。
 ※ センター試験正答率60%を獲得する生徒を増やす学習指導。
 ※ 英検準2級以上の資格取得者が卒業生の70%以上を占める。

3. 一人一人の生徒の有する課題への支援体制の充実

- (1) 生徒と向き合う時間の確保のためのICT活用推進
 ※ 生徒情報の共有化と校務の効率化
- (2) 生徒相談体制の充実
 ※ 卒業時の学校教育自己診断における保護者の「子どもの心身の健康についての相談」項目の肯定的評価をH28年度80%に高める。(H25年度72%)
- (3) 自主性を大切にした上で、生徒に規律と習慣を身につける生徒指導
 ※ 遅刻者数の一層の低減（対H24年度比50%減）

4. 社会に開かれた学校づくりの推進

- (1) 学校情報の発信（ホームページの一層の充実、学校説明会、中学校訪問）
 ※ ホームページ平均1日アクセス数を、H28年度に平常時720回/日、受験選択時期1,000回/日に増加させる。
- (2) 地域貢献（教養講座の充実と地域行事への参加）
 ※ 教養講座の定期的開催
- (3) PTA、同窓会、後援会の皆様との連携の強化
 ※ 1・2年生保護者アンケートにおける「学校ではPTA活動は活発であったか」項目の肯定的評価を、H28年度80%に高める（H25年度63%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校への満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしていた。』への保護者の肯定的回答96%、『今宮総合学科で学んで良かった。』への肯定的回答生徒87%、保護者96%であり、全体として満足度は良好である。 <p>【生徒指導面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2学期末時点で、遅刻者総数前年比22%減(2960→2257)、不登校者数57%減少(14→8名)といずれも改善状況が良好。 学校行事への積極的な参加についての生徒の肯定的回答82%。部活動への積極的な参加への肯定的回答72%と生徒の学校生活も良好。 <p>【学習指導面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度9月に1～2年生普通教室にプロジェクターを導入した効果が表れ、『ICT機器が、授業などで活用されている。』の肯定的回答が、教員84%、1年生徒84%、2年生徒80%に達した。一方、導入が遅れている3年生徒の肯定的回答は60%に留まっており、早急な整備が必要。 『毎日学習した。』への肯定的回答が1～2年生で22%であり、また、『授業中大きな声で発言している。』への肯定的回答が1～2年生で40%である。進路保障には生活習慣、学習習慣の改善が必要である。 <p>【学校運営面】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の相互理解への肯定的回答80%、教員の校長リーダーシップへの肯定的評価70%に対し、分掌・学年の有機的連携への肯定的評価が50%に留まっている。 	<p>第1回(H26年6月14日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今宮高校は、生徒の表情がものすごくいい。学校生活が充実している証拠。今宮高校として大きなグランドデザインやベクトルをどこに揃えるかが課題。細かな分析のもと、大きな目標に向かって進んでほしい。 今宮は「出る杭を伸ばしてくれる」高校だと感じる。今宮高校の生徒の自由さ・自主性・多様性を大事にして欲しい。 勉強が必要だという仕組みを構築するようなアイデアを考えてほしい。 日本の国家戦略でも英語力。一方で、先生が英語の授業が重荷になっている。他教科の先生にも助けを借りないと英語の力はつかない。 <p>第2回(H26年11月19日)</p> <p>本年度の取り組みの進捗状況報告について特段の意見は無かった。H28年度入学者選抜で取り入れられるアドミッションポリシーについて、次の意見を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合学科の特色を生かす内容 学習内容を選択できること 「ルールを守る自由人」など、大学受験一辺倒でない内容を望む。 <p>第3回(H27年2月7日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生方や学校にはアンケートの結果をポジティブに考え、改善の参考にして、引き続き熱い指導をお願いしたい。 今宮高校はリベラルな考えを持った多くの社会に貢献する人材を輩出してきた。今宮高校の先生方にも、長いスパンで生徒達を指導し、自由闊達な教育の場を作っていたいただきたいと期待している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
めざす学校像の実現	教職員間での一層のビジョン、グランドデザインとデータの共有推進	(1) ビジョン 21 プロジェクト活動の新規開始 (2) ビジョン検討会の実施 (3) ビジョンとグランド・デザインの共有	(1) プロジェクト再開 (2) ビジョン検討会の開催 (3) 3年間人材育成プログラムと学習スタンダードの整備	(1) 首席をリーダーにビジョン 21 を 6 月に再開。(○) (2) 定期開催した。H27 年度ビジョン 21 のメンバーを核として学習指導部を新設・分掌化する。今宮ブランド育成を進める。(○) (3) 3年間育成プログラムロードマップ原案完。国数英の学習スタンダード策定中(△)
高い志を持って進路を切り開いて行く力の育成	(1) 自らの進路を考える力の育成 (2) 考える力、纏める力、伝える力の育成 (3) 国際感覚と国際交流力の育成	(1) 『今宮志学』プログラムの体系化 1年『自己発見：産業社会と人間』 2年『自己探求：総合的な学習』 3年『課題研究：自己実現検討』を軸とした『今宮志学』プログラムの体系化 (2) ア. 生徒が発表する場の充実 (今高生の主張、英語スピーチコンテスト) イ. 体験的学習・グループ学習の充実 (3) ア. ユネスコスクールの取り組み立ち上げ イ. 英語資格試験の有効性検討と選択・試行	(1) 学校教育自己診断におけるキャリア教育関係項目の肯定的評価を 1年: 58%→65% 2年: 60%→65% へ向上 (2) ア. 発表イベントの格上げと外部への公開 (3) ユネスコ主催イベントへの参加	(1) 学校教育自己診断『今宮総合学科で学んで、自分の進路選択ができた。』への肯定的回答 1年 58%→60%、2年 60%→67%、3年 80%。 2年の大幅改善と3年結果から達成。(○) (2) ア. 英語スピーチコンテスト(2年)と英語暗唱大会(1年)を学校行事として外部会場で2/12開催済み。今高生の主張を次年度実施する。(○) イ. 『自分で考える力や自主性を伸ばすことができた。』への肯定的回答: 1~2年 70%、3年 82%。 H27年度は、学習習慣の定着を図る。(○) (3) ア. ユネスコスクールへの加盟が承認された。岡山での国際大会に参加した。(○) イ. H27年度英検対策講座の実施と2年生での原則全員受験の決定した。(○)
自己実現のための学力保障	(1) 総合学科の特性を活かしたカリキュラム編成 (2) 授業の充実 (3) 進路保障 ア. 学習に取り組む生徒の育成 イ. 国公立もしくは関関同立合格可能学力獲得支援	(1) 45分7時限授業体制の確立 (体制及びカリキュラムの検証と課題改善) (2) 授業力の向上 ア. 授業アンケートの教科別分析会議の開催 イ. 研究授業の実施 ウ. ICTの活用推進(英語科、国語科等) (3) 進路保障 ア-1. 家庭での学習量の充実 ア-2. 講習の実施(放課後、土曜、長期休業中) ア-3. 講習への参加率向上 イ-1. 国公立関関同立+近合格レベル検証と指導 イ-2. 英語力、国語力の強化 イ-3. 適切な模擬試験の実施、結果分析と指導 イ-4. 英検受験の奨励 イ-5. 学力把握基礎データの整備	(1) 課題の明確化と必要な改善の実施 (2) ア. 分析対策会議の実施 イ. 各教科各2回以上計10回以上実施 (3) ア. 学校教育自己診断における「学力を伸ばそうと努力した」の肯定的評価を 70%→75% へ向上 イ-1. 国公立関関同立・近への進学者合計が、四年制大学進学者の50→55%以上へ向上。 イ-2. 英検準2級以上保持卒業生19→40名以上。	(1) H27年度より、土曜日授業を利用して45分*7限、週34単位とし補充授業の解消を決定。(◎) (2) ア. 本格実施できず。H27年度は、学力生活実態調査・模擬試験後の分析会を学校行事予定表に組み入れ実施する。(△) イ. 主要教科各2回以上計16回の研究授業を、ICTをテーマとして実施した。(◎) ウ. 『ICT機器が、授業などで活用されている。』の教員の肯定的回答が、84%に達した。(○) (3) ア. 『学力を伸ばそうと努力した。』の肯定的回答 1年 74%、2年 71%、3年 73%。改善したが未達。(△) イ-1. 国公立関関同立近で前年比減の46%。 国公立関関同立産近甲龍は前年比増の56%(○) イ-2. 英検受験者増とならず。(△) イ-3. 模擬試験を計画通り実施。(○) イ-4. H27年度1~2年英語授業・講座増と2年での原則英検全員受験を進めることを決定。(○) イ-5. 1~3年の模擬試験体系を見直し、またH27年度より学力生活実態調査の1~2年生での実施、教員による分析会の実施を決定した。(○)
一人一人の生徒の有する課題への支援体制の充実	(1) 生徒と向き合う時間の確保のためのICT活用推進 (2) 生徒相談体制の充実 (3) 自主性を大切にしながら、生徒に規律と習慣を身につける生徒指導	(1) 校務の効率化による指導時間の確保 ア. 職員会議等の資料の電子化の推進 イ. 授業におけるICT活用の推進 ウ. 校務支援システムの円滑な活用推進(メール活用推進、各種校務処理活用) (2) 教職員間の情報共有の推進 ア. 大職員室による教員間のアナログ的情報交換の活性化 イ. 支援教育コーディネーターを中心とした「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用する推進体制の整備 ウ. 教育相談委員会を中心とした相談活動の充実と情報の共有化 エ. 電子掲示板の立ち上げ (3) 遅刻指導の一層の推進 ア. 校務システムを利用した遅刻指導の推進	(1) 教職員による学校教育自己診断のICT該当項目の肯定的評価を 30%→50% へ向上 (2) ア. 卒業時の学校教育自己診断における保護者の「子どもの心身の健康についての相談」項目の肯定的評価を80%に高める。 ウ. 教育相談委員会の定期的開催(月2回以上) (3) ア. 遅刻者数をH24年度比30%減	(1) ア. 職員会議での資料の電子化は進まず。(△) イ. 『ICT機器が、授業などで活用されている。』の教員の肯定的回答が、84%となった。本年9月1~2年生の普通教室へプロジェクトを導入。授業でのICT化が本格化した。(◎) ウ. 教員メールでの資料送付開始(H27/1)(△) (2) ア. 「子どもの心身の健康についての相談」項目の肯定的評価が、70%→60%へ低下。生徒の支援に偏りがあった可能性がある。(△) イ. 支援教育コーディネーターと教育相談委員会、SCが連携できている。(○) ウ. 定期的開催しているが、月2回は未達。 エ. 移行用NASに、『☆☆☆今日の連絡☆☆☆』フォルダーを作り、情報共有開始済。(○) (3) ア. 12月末比較で、対H24年度比46%減、対H25年度比22%減。校務システム利用方式に変更後、良好に改善した。(◎)
社会に開かれた学校づくりの推進	(1) 学校情報の発信 (2) 地域貢献 (3) PTA、同窓会、後援会の皆様との連携の強化	(1) 学校情報の発信 ア. ホームページの一層の充実(クラブ活動情報の充実、デザインの更新) イ. 学校説明会・オープンキャンパスの充実 (2) 教養講座の定期的開催 (3) PTA活動の一層の充実と保護者参加の学校づくりの推進 (4) 創立110周年記念事業(2016年度開催)に向けての自彊会(同窓会)・PTA・後援会との連携	(1) ア. ホームページへの1日アクセス数を、720回/日へ増加(H24年度約500回) (2) 定期的開催の継続 (3) 1・2年生保護者アンケートにおける「学校ではPTA活動は活発であったか」項目の肯定的評価を、70%に高める(H25年度63%) (4) 記念事業内容概ね確定。	(1) ア. 通常550回、イベント前後1,000回/日。また、『学校のホームページなど広報活動は充実していた。』への保護者の肯定的回答91%から、保護者満足度の観点からは達成。(△) イ. オープンスクール・本校での学校説明会に延べ1,500名以上の中学生が参加。新たに中学生向けに今宮スポーツフェスタを開催し、底辺を拡大。さらに、中学校への出前授業(国語、英語、ダンス、理科等)を計7中学校で実施。(○) (2) 土曜開催今宮教養講座を計9回19講座開講。(◎) (3) 『この学校のPTA活動は活発であった。』への保護者の肯定的回答88%。PTA役員と各部長の連携も強まり、行事参加者が増加した。(◎) (4) 110周年記念式典をH28年11月12日(土)開催を決定。準備委員会をH26年1月24日に開催し、正式に発足した。(○)